

令和3年度地球温暖化対策部会 臨時部会 議事（要旨）

令和3年7月29日（木）
午後6時から午後8時まで
府中市役所北庁舎3階第1会議室

出席委員（10名）

対面 成瀬こずえ委員、表 伸一郎委員、小西信生委員、山村憲太郎委員、安部貞司委員、嶋原國夫委員、

リモート 澤佳成委員（部会長）、榎本弘行委員（会長）、河村幸子委員、平崎崇史委員

欠席委員

なし

事務局

田中環境政策課長、扇山環境政策課長補佐（兼）管理係長、桑田環境政策課副主幹（兼）環境保全活動センター担当副主幹（兼）環境改善係長、白木自然保護係長、自然保護係中澤、環境改善係越智、環境改善係平塚

傍聴者

なし

議題

- 1 開会
- 2 議題 （1）アンケート調査について
- 3 その他
- 4 閉会

資料

資料1 府中市環境審議会の日程について

資料2 部会からの資料

参考資料 計画一本化関連資料

その他 府中市地球温暖化対策地域推進計画（中間見直し）

会議録（要旨）

【事務局】

定刻を若干過ぎまして申し訳ございません。ただいまから、令和3年度府中市環境審議会地球温暖化対策部会の臨時部会を開催させていただきます。

皆様、大変お忙しいところご出席いただき、ありがとうございます。

本日の会議につきましても、会場とウェブ会議システムを併用して開催とさせていただきます。

ウェブで参加していただく方へ改めてのお願いとはなりますが、注意事項として、1点目は、音声の混雑を避けるために、発言される場合を除き、音声についてはミュート状態にしてください。ビデオはオフでお願いいたします。3点目は、発言をする際は、ミュートボタンをオフにして、氏名を名乗って、「発言があります」などご発声いただき、部長または事務局より指名がございましたら、ご発言ください。

委員の皆様におかれましてはよろしくお願いいたします。

また、会場にお越しただいております委員の皆様におきましても、ウェブ会議システムからご参加いただいております委員の皆様には氏名が分かるようご協力をお願いいたします。

なお、前回マイクの音が拾いづらかったということがありました。真ん中の机に置いてあるものがマイクですので、発言の際には中央のテーブルのマイクを意識して、できればそちらのほうに発言をしていただければと思います。

それでは、お手元にお配りさせていただきました資料の確認をさせていただきます。

初めに本日の「次第」でございます。次に、お配りさせていただきました資料といたしまして、資料1「府中市環境審議会の日程について」というもの。「資料2」は澤部会長からいただいた資料です。資料番号が振ってありませんが、ご了承ください。

次に、参考資料として計画一本化関連の資料でございます。こちらは計画一本化についてのご質問がありましたのでお配りするものです。内容としては、平成28年度の地球温暖化対策地域推進計画の中間見直しについての答申書。令和元年第2回生物多様性地域戦略の計画期間延長の際の資料。令和2年第2回審議会の資料及び議事録抜粋となっており、関連するところは黄色く網掛けをしております。こちらについては後ほどご覧ください。

次に「その他」としまして、「府中市地球温暖化対策地域推進計画（中間見直し）」。また、委員からご提供いただいた「今日から始める省エネ教育」の冊子も配布しております。以上、資料を配布させていただきましたが、過不足はございませんでしょうか。

なお、「府中市地球温暖化対策地域推進計画（中間見直し）」につきましても、本日ご持参いただいている方もいらっしゃると思います。恐れ入りますが、ご持参いただいた方におかれましては、ご自身の資料をご使用くださいますよう、お願いいたします。

続きまして、欠席者等についてですが、本日は欠席の方はいらっしゃいません。よって本日の会議は有効に成立することをご報告いたします。

それでは、議題に入ります前に、本日臨時に部会を開催する趣旨についてご説明いたします。

第1回部会において、アンケート調査につきまして多くの意見が出されましたが、部会の結論としてのとりまとめには至らず、メーリングリストによる継続審議の提案などもいただきましたことから、部長との協議により、改めてアンケート調査について部会としての意見をとりまとめいただくために開催するものでございます。

アンケート調査の実施時期につきましては、スケジュール案を昨年度の審議会でお示し

し、ご了承いただいていた経緯もあり、また、市長の附属機関であります本審議会の役割としましては、市が検討した案についてご意見をいただき、案の修正を行いながら計画案をとりまとめていくこととしていますことから、アンケートの内容に対する意見を求めたものでございましたが、実施の時期や可否についての多くのご意見をいただきましたので、本日はその実施時期等について改めてご意見いただき、部会としての結論をとりまとめていただきたいと思います。

なお、部会としてとりまとめていただきました結論につきましては、来週の審議会本会で報告いただき、改めてご審議いただくことを予定しております。事務局からの説明は以上でございます。

それでは、次第3「議題」に移ります。ここからの進行につきましては、澤部会長にお願いいたします。

【部会長】

それでは、私のほうで進めさせていただきます。聞こえておりますでしょうか。

【委員】

聞こえています。

【委員】

会場の声があまり聞き取れないのですが、何か調節ができますか。

【部会長】

多分、事務局の方は後ろのほうだからかもしれません。

【事務局】

今マイクでお話ししていましたが聞こえませんでしたか。

テストで今しゃべらせていただいています。マイクをスピーカーの前で拾っておりますが、聞こえますでしょうか。

【委員】

よく聞こえます。ありがとうございます。

【事務局】

そうしましたら、会場の委員の皆様、本日はマイクをお回ししますので、発言の際はマイクをお渡ししますので、それでご発言いただくようお願いいたします。

すみませんでした。では、部会長、お願いいたします。

【部会長】

ご調整ありがとうございます。

では、審議に入る前に委員の皆様をお願いがあります。現在、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言発令中でありますので、発言は簡潔明瞭を心がけ、会議に要する時間の短縮にご協力くださいますようお願いいたします。

はじめに、傍聴について委員の皆様にお諮りします。府中市情報公開条例に基づき、本会

は原則公開となっております。
傍聴人はいらっしゃいますか。

【事務局】

本日、傍聴人はおりません。以上でございます。

【部会長】

分かりました。それでは、議題のほうに移りたいと思います。
本日の次第の「2 議題」の(1)「アンケート調査について」です。はじめに「資料1」について事務局から説明をお願いいたします。

(事務局より府中市環境審議会の日程について説明)

【部会長】

ありがとうございました。それでは、議題の(1)について進めたいと思いますが、その前に私から、「資料2」としまして、部会からの意見の原案をまとめておりますので、まずそちらをご説明申し上げてから議論に移りたいと思います。

実は、フローチャートのA4、1枚の縦で、左側に「令和3年8月」と書いてあって、上に「審議会本会」「部会」「市民の意見」と書いてあるものがお手元にあると思います。

【事務局】

上から4枚目の資料になります。

【部会長】

それも追加の資料でございます。よろしく申し上げます。

まず、「今後の府中市環境審議会の進め方について(部会からの意見)」ということで、私が文章をまとめました。これを作成するに当たっては、委員の皆様から意見をいただいたり、資料をお寄せいただいたりしました。大変ありがとうございました。それも含めて、5ページに今後のスケジュール表を書いてあります。これに関して、会長からフローチャートにしたほうが分かりやすいのではないかというご意見をいただきました。それで作ったのが今日追加でお配りしたフローチャートになります。

全体の立て付けですが、すみません、私のまとめる力がちょっと及ばなかったのもあるのですが、まずはアンケート調査を延期したほうがいい理由です。これは文書のほうですと、3ページの「意見4」になります。「アンケート調査は、意見3で提起したような……」というようなことが書いてありますが、このアンケート調査を延期する理由を先にもってきて、そのフローチャートを提案してから、意見1、2、3、4と持ってきたほうがいいなと思っていますので、後ほどそのように修正させていただければということをお含みおきいただければと思います。ただ、説明は前後すると申し訳ないので、文書のとおりに行っていきます。よろしく申し上げます。

この文書では、まず冒頭で、皆さんへ部会長として意見を述べさせていただきます、ということで鏡の文章を載せて、意見を4つ載せてございます。

「意見1」は、委員と事務局とコンサルタント会社の三者協働でPDCAサイクルに則った議論を進められるようにしたい。そのためにも委員から有益なデータや資料の提出があっ

たら、会議の参考資料として併せて配布する仕組みにしてはどうかということで載せてあります。これは今までいろいろな意見が出てきましたけれども、P D C Aサイクルに則ったほうがいいのではないかとということと、これまで委員が提出された資料がなかなか配布されないといったご不満もありましたので、できることならばお互いに持っている知恵を出し合っ、みんなで協働してよりよい原案を作っていければいいのではないかと意見になります。

次に2ページ目をご覧ください。下のほうに「意見2」とあります。こちらは事務局が6月本会で提出された文書「次期府中市環境基本計画の策定について」の「3 計画策定にあたっての留意事項」の(1)について、明記してある方針を採ることにされた背景・根拠を、また、(2)~(5)の方針の意図を、8月4日審議会本会の冒頭で説明されてはどうか、という意見になっております。これを打ち合わせのときに事務局の皆様が読んでくださって、今日参考資料として該当する文書が皆様のお手元に配布されたということになっております。これが意見の2つ目です。

3ページ目の「意見3」は、P D C Aのチェックが済んだら、まずは、府中市としてどのような環境都市を目指すのか、その具体的な理想像についてみんなで話し合うというプロセスを踏むとよいのではないかと、という意見になっております。これについても6月の本会的时候からそうですが、府中市としてどのような環境都市を目指すのか、そういう具体的なイメージを先に話し合ったほうが方針や計画が立てやすいのではないかと。それを立ててからアンケートをしたほうがいいのではないかとのご意見が多かったので、このような意見を3つ目に挙げさせていただいております。その具体例として、「地域脱炭素ロードマップ」というのは政府の機関で話し合われた文書の中にあるのですが、具体的な数値目標が挙げられていたり、環境都市として、都市でも行える具体的な施策例が挙げられていたりします。あるいは、ゼロカーボンシティの宣言も全国で400以上の自治体が行っているという文章が明記されていたりします。それを載せてみました。ほかに今考えられることとして、ゼロエミッションの実現とか、生物多様性保全と調和した温暖化対策の実現とかが挙げられるのかなと思います。こういったことを「意見3」として挙げさせていただいております。

引き続き「意見4」です。ここでようやくアンケート調査が出てくるので、これを一番上にしたほうがいいかなと考えているわけですが、「意見4」では、アンケート調査はこれまで述べてきたような意見を、作業を行なったうえで具体像とか具体策がある程度固まってから、その方針でいいのだろうか、そのような方針でいろいろ行っていくうえで協力していただけるかどうか、あるいはほかに審議会のほうで見落とししているような具体策などはないかどうか、そういった回答を求めるかたちでアンケートをとったほうがいいのではないかと意見になっております。

4ページをご覧ください。こちらは意見の説明です。計画を策定するに当たり、第3次基本計画の実施年次に入ったあとの普及活動とか評価方法も見据えた議論を行ったほうがいいのではないかと、というご意見もいただいておりますので、挙げてあります。ここでいろいろあるのですが、前回の部会で委員から出していただいた小中学校での具体的な実践例は資料をいただいておりますので、後ほどぜひご紹介いただければと思っております。

そして5ページですが、ここでようやくスケジュールが出てきます。以上のような内容を踏まえたうえで、こういうふうに進めてはどうかということで挙げてあります。

「意見6」を先に述べさせていただきますと、「意見6」は審議会にしても部会にしても、事務局とかコンサルタント会社の方の説明が長くて議論の時間がちょっと短いのではないかと意見もありましたので、それも明記したということです。

実は、以上を踏まえて、フローチャートに入る前に、事務局のほうで既に改善対応をしてくださっている部分もあるのです。「意見1」で先ほど述べました委員からの資料については、事務局の方は、事務局から当日使う資料を事前になるべく早く配信して、（委員の皆さんに）目を通していただいて、意見あるいはこういうデータがあったらどうかというのが委員の皆さんから出てきたらそれも当日配布してはどうか、と考えていらっしゃるということです。あと、今述べました「意見6」もなるべく説明を短くしたいということで検討してくださっています。

それを踏まえたうえで、次に今日、資料として追加でお配りしていただいていますフローチャートの説明に移りたいと思います。こちらは審議会本会が一番左側の縦列で、真ん中が部会で、一番右側が市民の意見を求めるプロセスになっております。

令和3年8月、今度の審議会の本会は検証がなされます。これは毎年度行わなければいけないものとして、前年度の実施状況があるということで、それも組み込ませていただいております。あと、第2次基本計画の実施状況。これは過去7年間の実施状況です。これは会長のご意見ですが、第1次基本計画実施の効果と第2次の途中経過ですけれども、その結果を比較したほうがよりよい結論が得られるのではないかとということで、それも載せております。それを踏まえたうえで、今後どういうことを議論すべきなのか。具体的な環境都市・府中をイメージして方針を立てていくうえで課題を抽出する。

そして右側の9月の部会では、その課題の改善に向けた議論を行う。このときに世界のいろいろな考え方の潮流や諸政策を精査したり、関連データ、指標の精査をしたりして具体的な方針や施策を検討してはどうかということにしております。

10月にまた審議会本会があるわけですけれども、環境都市・府中の具体像をこれまでの8月の本会、9月の部会の議論を踏まえて行ってはどうか、両部会での議論をすり合わせて、府中市として取り組める具体像や具体策を抽出してはどうか、という提案をしております。

11月の部会ではそういうふうにイメージされた環境都市・府中を実現していくためにはどういった方針や具体策がいいのかということも議論する。それに合わせて、ここで漸くですけれども、こういうふうにアンケート調査をしたらいいのではないかと、ワークショップを行ったらいいのではないかと話し合いをしてはどうかというご提案です。

12月の審議会本会は、事務局ご提案には入っておりませんが、できれば増やしてほしいと思っているところです。環境都市・府中のイメージと具体策をまとめたうえで、第3次基本計画の改定方針をある程度固めて、アンケート調査の原案とワークショップの方針を決定して、アンケート調査を実施して、ワークショップを実施して、市民の皆さんの意見を伺うというふうにしてはどうかと考えております。

それを踏まえて、これまでの議論と市民の皆さんから挙げてきたご意見を踏まえて、来年2月の審議会本会では第3次基本計画案の方針を固めてはどうかというふうにしております。

5月は新年度になりますけれども、ここからは第3次基本計画の内容を徐々に固めていくということで、フローチャートをご提案申し上げますということです。

以上、私からの原案と事務局から提起された「資料1」について突き合わせてみたうえで、さらに私からの「部会からの意見」の原案をよりよいものにしたらうえで、今度は8月の本会で意見を報告させていただく予定でおります。ですので、こちらをよりよいものにするために今日は議論ができたかと考えておりますので、よろしく願いいたします。私からの説明は以上です。

ということで、どうしましょう。委員からの説明を先にしていただいたほうがいいですかね。

すみません、全部「資料2」になってしまっていますので。

【委員】

今日は皆様に別途資料のほうはお渡ししております。本も入っていますか。

入っていますね。すみません、失礼しました。

「資料2」の中にも入っておりますが、別途、今私のほうでもう少し大きくしたものをお手元にお配りさせていただきました。「省エネ教育の普及に向けた提言書」というものです。お手元にございますでしょうか。では、こちらのご説明を5分ぐらいでさせていただきますと思います。

こちらは2021年4月に省エネ教育プログラム検討委員会という、こちらの委員会は2017年に住環境計画研究所と東京ガス都市生活研究所が中心となって設立された委員会になっております。中にも委員会メンバーが入っておりますが、こちらのメンバーで環境省ですとか学会等で発表された資料になっております。

中身のほうのご説明をさせていただきます。お手元に省エネ教育本もご用意させていただいております。中を見ながらでも結構ですので、ご覧いただければと思います。

本提言の背景としましては、まず言うまでもありませんが、気候変動問題をめぐる状況として、気候変動問題は年々深刻化しております。最近では各地域の気象災害が多発している状況です。また、脱炭素型ライフスタイル転換のための気候変動教育というところで、日本は温室効果ガス排出量を2050年までに実質ゼロとする脱炭素社会実現を目指しております。脱炭素社会の実現のためには国民一人ひとりのライフスタイルを脱炭素型へ転換していくことが不可欠であるということで、ここまで2030年度のCO2排出量の(削減)目標は今まで40%だったものが、今年の4月には家庭からの排出量は66%に変わりました。ということで、重要な課題となっているというところがここでも言えるかと思えます。

これまでライフスタイルの転換は国民運動ですとか普及啓発で進められてきたものの、ただ国民全体の定着につながる施策としてはまだまだ課題があるというところになっているかと思えます。

次のページをご覧ください。もう一つの背景としましては、学校教育における環境教育の課題です。学習指導要領の2008年の改訂で環境教育が充実化されて以降、今までも特にやっていなかったというわけではないのですが、自然環境教育が中心でしたが、今はそれがだんだん気候変動の教育中心に変わってきたというところがございます。さらに、新学習指導要領(2017年3月改訂)においても、前文で児童生徒が「持続可能な社会の創り手となることができるようにすること」が明記されているという背景があります。

その下の「持続可能な開発目標(SDGs)の実践としての教育」の目標4「質の高い教育をみんなに」と、目標13「気候変動に具体的な対策を」では、持続可能なライフスタイルや気候変動緩和に関する教育が求められているということです。SDGsのバッジみたいなものを、皆さん、今も着けていらっしゃる方は多いと思いますが、2、3年前はほとんどいらっしゃらなかったと思いますが、最近是非常に多いなと思えます。委員もお持ちですよ。ありがとうございます。ということで、その部分が記載されたことによって非常に浸透してきているというところが、今の背景としてあるところです。

では、3ページ目をご覧ください。「省エネ教育プログラムの有効性と提言目的」というところです。皆さん、特に先生方はご存じだと思いますが、ナッジ理論というものがござい

ます。環境関係ですと皆さんご存じかと思いますが、ナッジにはそっと後押しするというような意味がございます。まず、このプログラムの有効性としましては、基本的に自己啓発的に、自発的に行動を促すナッジ理論を先進的な知見を用いて導入しているものになります。2ポツのところにあります。これまで全国の小中学校で約1万人を対象にこの授業を導入することで、約5%のCO2削減に効果があること、また省エネ行動実践率が約20%向上すること、教育後も省エネ行動が持続することを証明したことになります。ここで何が一番いいかというのは、今までの教育は、そうでない部分もあるかもしれませんが、「何々しなさい」という教育が多かった。それがナッジ理論を入れたことによって、自発的に自分たちで考えて行動することを定着させたことによって、継続的な効果が見られるということが言えるかと思います。

次の4ページ目をご覧ください。「省エネの普及に向けた提言」というところで、「国および地方公共団体への提言」としては、省エネ教育を学校教育の一環として発達段階に応じた継続的かつ体系的に導入するべきであるというところです。ここは小学校、中学校の課程を通じて継続的に学習することに意味があり、必要があるというところです。「国への提言」としましては、次期学習指導要領において教育環境に関する新教科を立ち上げる等の国民に求める省エネの位置付けを明確化するべきであるというところで、この次期学習指導要領は10年後に改訂するというものですので、そのときにはしっかりと明記するべきではないかというところを提言しています。また、最後ですが、「地方公共団体への提言」としましては、学習指導要領の改訂は10年後ですが、その10年後を待たずとも省エネ教育の継続的かつ体系的な学校教育の導入をするべきだというところを提言しているものになります。

次の5ページ目に関しましては、本提言の主体となりました委員会メンバーが記載されておりますので、後ほどご覧いただければと思います。

最後に少しだけ、「学校における省エネ教育プログラムの開発・実証の概要」というところで、8ページ目をご覧ください。まず、「背景」の3ポツの「学校での省エネ教育が家庭のCO2排出量に与える影響を定量的に実証した研究はない」というところです。今まで学校教育の中であったものの、教育したあとどうなったのかという測るものがなかったということが実態としてあるようです。今回の実証としましては、2017年から2020年度にかけて全国の小・中・高等学校43校、約1万人に対して実証を行った結果となっております。

10ページの「学校における省エネ教育プログラムの効果」というところです。この「省エネ行動」の右のグラフを見ていただきたいと思います。教育前のCO2の省エネ行動実施状況ですが、「かなりしている」と「ややしている」は約65%でした。それが教育後には81%、半年後には81%、1年後には75%とやや下がるものの、そのパーセンテージはほとんど変わっていないというのが実態としてあります。ここで何が言いたいかというと、先ほどから申し上げているとおり、小中学校の段階から自主的に行動すること。自分たちから行動することによって定着していくということがここでも証明できているということになります。やはりこういう今の小中学校の子たちが、2030年度、2050年度の今の目標値に対して、そのときちょうど大人になっている世代の子たちなのですね。なので、そういう子たちが継続して行うことによって、CO2排出量の削減に効果が得られるというところが、この資料から言えるかなというところがございます。

また、最後の11ページに「実証参加校の保護者の声」としましても、子どもが実施することによって家族としてもとてもいいきっかけになったとか、省エネに関して子どもと話し合うきっかけになったというような意見もございます。ということで、この間も申し上げま

したが、今の親世代は、私はちょっとそうではないのですが、子どもの教育に非常に熱心で、子どもがやることをなるべく一緒にやっという親世代が多いと思いますので、そういうところでも家庭に浸透していくというところが、こういうところからも言えるかなということでございます。以上となります。

この教育本の内容を見ていただくと、メーターを見たり、日々の生活の中での省エネの取組みたいなものが子どもでも簡単にできるように、考えて、それを持続していくというようなものがございますので、ぜひ参考にご覧いただければと思います。今、部会長もご購入いただきこうと試みてくださったようですが、売り切れていてすぐに手に入れない状況のようでございます。機会がありましたら、参考に見ていただければと思います。以上です。

【部会長】

ありがとうございました。大変示唆的かつ先進的な共同研究だと思いました。今ご報告いただいたのは、今後の議論にも大変有益だと思いましたということと、委員が持ち寄った資料で議論していくことの意義をここで試してみたかったということです。これは「意見1」に関わってくるのですが、大変よかったと思います。

最初に部会としての大枠の方針で決めるべきことを先に決めていきたいのですが、よろしいでしょうか。そのあとにフローチャートとか細かいところを見ていきたいと思います。

まず、事務局のほうから求められておりますアンケート調査の実施時期についてです。部会としてはある程度、方針とか目指すべき環境都市像といったものが決まったあとで実施することを求めるということではよろしいでしょうか。皆さん、ご異論はございませんか。

【委員】

よろしいでしょうか。

【部会長】

発言をお願いします。

【委員】

前回の反省を受けて、どこの誰がしゃべっているか分からなくなるだろうということで、こういうもの（委員の氏名が書かれた厚紙）を勝手に作って今リアルで参加している人に配っております。日々改善ということ。

今、部会長がおっしゃったとおりで、まずスケジュールありきではなくて、やるべきことをきちんとやって、それで完全にとまではいかななくても、これでやれば大体いけるなというところまでいったところでアンケートをやる。もしアンケートをやるとしてもそういうことだね、という話です。

もう一つは、これは部会の中だけで、勉強会の中だけで意見を言わせていただきましたが、この第2次環境基本計画の中では、実は地球温暖化は3ページしか書かれていないのです。それに対してこのアンケートは意見について20ページを使って記述をして、しかもその分析にはひと言も書かれていない状態です。やるからにはちゃんと分析をして、こういうアンケートはこういうふうに読めますねとかいうことをやると、20ページがすぐに30ページに膨れあがる可能性があります。全体として130ページぐらいしかないこれを300ページとか400ページにするという発想は、常識的に考えて多分ないだろう。今作ろうとしている第7次の総合計画が200ページ前後だとしたら、（第3次環境基本計画も）せい

ぜいそんなものだとしたら、その中でいったい何ページを地球温暖化について使えるのか。

また、生物多様性や、ごみの問題その他についても全部記述をして、しかもアンケートをやってということになると、ページ割りがある程度見えなければ、「アンケートのためにこのページはもうとってしまいますから、実際に計画を書くページ数はこれだけしかありませんから、それをお願いしますよ」ということになります。生物多様性に関して、今のものはせいぜい2、3ページぐらいなものです。そういうようなものを入れ込んで、ただそれだけで済むということではないから部会があるわけで、それなりのちゃんとした肉付けをしてやるということになると、このアンケートそのものが果たして意味があるのかというのを私はずっと言い続けているところです。

3番目の主張ですが、そうするよりは、今、委員がおっしゃったり、部会長がおっしゃっているように、実際の実践のところにお金を使って、これの概要版を作ったり、もっと分かりやすいものにする努力をして、例えば、1学年で大体2500人ぐらいの小学生がいますし、中学生も2000人ぐらいいますから、そのぐらいの部数を刷って、それを環境学習に使っていただく。環境審議会の中に校長さんもいらっしゃいますから、最初からいろいろと話し合いをした中でそういうことをやれば、比較的金がかからずに済むような環境審議会とか環境基本計画になるのではないかと。その中で、なおかつアンケートをやる意味があるならば、それはやることには意味があるのかもしれませんが、少なくとも第2次のときには、20ページぐらい使って、しかもコメントがなくて、本文のところにもそれに関する言及がひと言もなかった。それでアンケートをやりましたというのは、何かのアリバイづくりのためにやったということにしかないというのが、私や一部の部会のメンバーの意見です。

部会長は優しい人ですから、そういうことについてそこまでは言及はしていらっしゃいませんけれども、そういうような状況ですので、ぜひとも本来やるべきことをやって、必要なページ割をある程度やったうえで、アンケートがどうしても必要だということであれば、そこでもう一回見せていただいたほうがいいのかなど。こうやって議論をしている時間も、それなりに時間がかかっていますから、その分をどうするかというのはあるのかと思います。以上です。

【部会長】

ありがとうございました。とりあえず、最初に申し上げた「アンケートは必要に応じて実施してはどうか」ということを求めるというのは、皆さん全員一致でよろしいでしょうか。

(部会委員一同了承)

ありがとうございます。それと、今委員がおっしゃったことは、私がちょっと書き方がまざったのですけれども、私の「部会からの意見」の原案の4ページの「意見5」の中で、「普及活動の具体例」の3つ目の黒ポチの「小中学校でも取り扱ってもらえそうなパンフレットの作成」とありますが、これはちょっとまざったので、概要版を基本的に配布することによってどうか、みたいなことですね。こういったものを明記してはどうかと思いました。項目をまた別にして、今、委員からいただいたご意見を詳しく載せたいと思いましたが、いかがでしょうか。そうするといいかなと思ったのですが。

私は今イメージとして、岩手県に葛巻町というところがございますね。再生可能エネルギーだったり地域の六次産業化だったり、林業と農業の連携だったりで有名な町ですが、そこが概要版をパンフレットにして道の駅でも旅行者が取れるようなかたちになっています。そう

いったものも大事かなと思いましたが、委員のご意見は大変示唆的だと思いましたが、いかがでしょうか。

議論が各論に入ってきましたので、すみません。私の進め方がよくなかったのですが、今の委員の意見とも関係してきますが、フローチャートについて皆さんいかがでしょうか。こちらと事務局のお示しくださった「資料1」の下段の表を突き合わせてご覧いただいて。

ここで1点、私から部会の意見として挙げたらいいのではないかと思う点があります。それは、先ほども申し上げたとおり、12月に審議会本会を1回増やしてもらえないかというご提案です。この点もご議論いただければ幸いです。

【委員】

よろしいでしょうか。

【部会長】

お願いします。

【委員】

今日はありがとうございます。この（「部会からの意見」の）5ページ目のフローチャートは、ステップを整理していただいて、私はとてもイメージしやすくなってよかったなと思っています。アンケートを実施するのであれば、こういう段階でこういう状況のときがよろしいかなというので賛成したいと思っています。

それと市のほうから「資料2」というのが出されていますが、これとわりとリンクしているように思いました。次は審議会本会になるわけですが、もう一つ部会のほうはどういう状況で確認をしていくのか。

それと、意見に対する市というか部署の考え方はお聞きしていないように思います。それはよろしいのか。このフローについては、今の2つについて確認しておくほうがいいのかと思いました。

【部会長】

ありがとうございます。私は打ち合わせで伺っているので、事務局のほうから簡単にご説明いただければ幸いです。

【事務局】

では、事務局からお話をさせていただきます。今、委員からお話しいただきましたが、流れにつきましては概ね部会の皆様のご意見をまとめたいただいた流れとさほど変わりがないかと思えます。ただ、事務局の資料が分かりづらくて申し訳ございません。提示しづらかったと思えます。

生物多様性部会の意見はどうかといったところからお答えさせていただきます。生物多様性部会のほうでは、アンケート調査は事前の基礎資料としての調査といった位置付けで、特にご意見等もなく審議されております。ですので、今回こちらの部会のご意見を踏まえて、次回の審議会の中で各部会からの報告をしていただきまして、部会からの意見の相違があるというところで、審議会本会で決をとっていただければと考えております。

部会からご提案いただいているスケジュールの審議会の開催時期と回数の件につきましては、審議会本会は4回ということで予定しておりまして、通常の計画策定に伴う回数とさほ

ど変わらないと認識はしているところですが、それに加えて部会が2部会あってそれぞれまた4回開催するといったところで、状況としては臨時に回数を増やすのは厳しいところではありますが、何らかの方法で審議が深まるようなかたちがとればということを考えております。例えば、事前に資料を配布してご意見等をいただいて、それを委員の皆さんに戻して、またそれを会議の中でお話しいただくとか、何らかのかたちで会議の中での審議がすみやかに行えるようなかたちがとればということで考えております。

スケジュール等についての考えは以上でございます。

【部会長】

ありがとうございました。委員、お願いします。

【委員】

今、委員から重大な提案がありましたよね。アンケートをやっても、前は環境基本計画の中で分析もないままだったからやめたほうがいいのではないかと提案があったと理解しているのですが、このフローチャートではアンケートの時期をあとにずらして、府中市のあるべき姿が分かったうえでアンケートを実施することになっています。

これについて、部会長はどういう方向でお考えですか。お話からすると、あるべき姿を示したあとアンケートは実施するのだという流れだと理解していますが、その辺ははっきりどうするかを決めておいたほうがいいのではないかと。要するに、アンケートをやらないという案もまだ残っているのか、またはアンケートをやるのだという方向なのか。この辺を先に詰めておいたほうがいいのではないかと思います。せっかく委員がいろいろな問題点も含めて説明されて提案があったわけですから。いかがでしょうか。

【部会長】

委員、お願いします。

【委員】

今の話に関連しますけれども、部会長の案だとすっきりするのですね。要は、あるべき府中市の環境のあり方というか、そういうのをある程度まとめて、それに対してアンケートをするということであれば必要だとは思いますが。ただ、今までのアンケートは非常に主観的というか、例えば「府中は緑が多いと思うか、少ないと思うか」とか、思うか思わないかみたいな話だと、これはあくまでも比較の問題で、国立よりは多いかもしれないけれどもインドよりは少ないみたいな話で、どこに基準を持っていくかによってどうにでもなるようなアンケートだったらあまり意味がない。やらなくてもいいのかな。そういう意味では、あるべき府中市の環境というものに対して市民がどう考えるかというアンケートであれば、やってもいいのではないかと思います。

【部会長】

ありがとうございます。ほかの委員の皆さんはこの件に関してございませぬか。委員の皆さんからご意見があったら、私はそのあとに発言したいと思うのですが。

【委員】

委員から、アンケートをやっただけということではなくて、その結果の分析があればいい

と。ただし、そうするとこの冊子が厚くなって予算の問題が云々という話がありました。

【委員】

その予算で抑えなければいけない。

【委員】

私の意見としては、その辺の問題はありますが、そこを何とかクリアすれば、部会長の示されたフローチャートで、府中市としての具体像を示して、そのあとアンケートをやる。もちろん、アンケートをどのぐらいのボリュームにするかといった問題点はあるかと思えますけれども。それでさらに委員がおっしゃられている問題点をクリアしていけばいいというふうに、私は思います。

【部会長】

ありがとうございます。

【委員】

ちょっと追加でいいですか。あと、府中市の政策課のほうのは毎年やっているのです。その結果、PDCAサイクルのチェックを毎年できるというメリットがあるのですが、これ（今検討しているアンケート）はどうかすると今回やって次が年度の終わりではなくて、最終の2030年度の終わりぐらいにやりましょうかという話にしかならないので、いったいどんな意味があるのですか。その中間がどうだったかということも第4次の環境基本計画を作るときに見られるという程度の話であって、期中のチェックのために全然役に立たないのですね。そういったために予算や人をつける予定には例年はなっていませんから、どうするか。

もう一つは、府中市の政策課で毎年やっているアンケート調査のほうであれば、少なくとも回収率も60%ぐらいは期待できるでしょう。今回はやっても3割いくかどうか、下手したらそれを切るぐらいの回収率にしかならないわけですから、それを根拠にしてまたコメントをつけるのはかなり話が困窮するというか、つらいことになるのだらうと思います。アンケートはそれらも全部クリアにしたうえでやってください。絶対にやるなどは言わないけれども、そういう条件を満足しないままに、単なる予算消化のためみたいなかたちで、「アンケートをやりました。それで市民の声を聞きましたよね」みたいな話は本末転倒ですよという、それが私たちというか一般的な考えでしょう。やれるものなら実際にやってみてください。

しかも、政策課のほうでは生物多様性については、毎年1ページぐらい使ってちゃんとアンケートをやってくれているのです。省エネその他についてのアンケートもとりあえずはやってくれています。政策課がやっている分析に対して何が不満なのですか。なぜそのために私たちの税金を使ってやらなければいけないのですか、ということになります。以上です。

【部会長】

ありがとうございます。ほかにございませんか。

では、委員から部会長としてのご意見を求められておりますので、皆さんからこれまでにいただいたご意見、今の議論から触発されて思いついた意見をちょっと述べさせていただきます。

まず、今委員がおっしゃったように、政策課がされているアンケートで経年の変化が見られるのであれば、それとは違った特色のあるアンケートをしたほうが生産的かなと思います。まずそれが1点目です。

あと、この実施時期ですが、目指すべき府中市の環境都市像といったものがある程度固まった段階で行ったほうがいいのではないかというフローチャートの原案にしてあるのは、これまでの皆さんの意見から考えたことです。例えば、そこでゼロカーボンシティを宣言してはどうかとなった場合にその方策をいろいろ考えていくと思います。そのときに具体的な方策をとるときに協力してもらえるかとか、そういった内容にしたほうがいいのではないか。あるいはゼロエミッションとか、委員が示してくださった資料によりますと府中市はごみが増えているので、それを減らすためにはどうしても市民の皆さんの協力が必要です。そうなった場合に、具体的にこちらがこうしたほうがいいのではないか、例えばもっとごみの分別を細かくしたらいいのではないかと考えたときに、それに協力してもらえますかとか、そういうふうに具体的に聞いていかないと意味はないだろう、この部会として問うアンケートとして特色あるものにはならないだろうと思っています。ですので、ある程度部会としてこういうふうにしていったらいいのではないかというイメージとか具体策が固まってきてから市民の皆さんに聞く。あるいは、私たちが思ってもみなかった意見があるかもしれないので、それも合わせて自由記述で聞くというふうにしてはどうかと思った次第です。これが2点目です。これが委員から求められたことだったと思います。

あと、議論から思ったことですが、例えば今回意見に挙げたらどうかと思ったのですが、アンケートの調査結果の概要と分析は別の小冊子にしてはどうか。基本計画にはその概要版の主要なものを盛り込むというふうに分けてはどうかということをして1つ思いました。

あと、これは最初に委員がおっしゃっていましたが、基本計画が分厚くなったとしたら、それを手に取って見ようという市民の人はどうしても少ないと思います。恥ずかしながら私も読んだことは一度もありませんでした。そうならないように、基本計画の本物といいますか、それとは別に配布版といいますか、より簡略化して一般市民の方も手に取ってもらえるようにして、子どもが読んでも分かるように。これは皆さんからの意見に出ていたと思いますが、手に取りやすいような配布版を別に作る。そちらの配布に力を入れるというふうにしてはどうかと思います。こういったことを先ほどの「意見5」の中に組み込んではどうかと今思いました。

いかがでしょうか。まだご意見をいただいていない委員の方もいらっしゃいますので、よろしければご発言をお願いいたします。

【委員】

よろしいでしょうか。アンケートの有無の議論が進んでいるかと思いますが、資料の中にも提案をさせていただきましたが、アンケートもそうですし、何のためにアンケートをやるのかとか、今回のこの計画の改定については何を重視して作るのかというようなところの議論をせずに、アンケートをやるのかやらないのかという議論になっているので、皆さんの意識が統一できないのではないかと感じております。ですので、普及啓発がすごく大事なのか、本日の冒頭にもありました教育ということが府中市ではすごく重要なのかというような、どこが一番重要な切り口かという議論をしてはどうか。部会長から提案をいただいたフローのとおりですけれども、そこをせずに一般的なかたちで進めましょうとなっているところが多分一番の問題かと思っています。まずは、この会のフローの議論の前に、事務局としては教育重視でいくのですとか、SDGsというようなところも織り込むのですというのは

今日の資料にもありましたけれども、そこをメインにいくのですとか、何かどういう方針で進むのかというまとまりをいただきたいという希望がございます。

【部会長】

ありがとうございます。何を中心に据えるか。以前の会長のご発言ですと、仮説を立ててから聞かないと有効な答えが得られないのではないかとということになると思います。私も委員のご意見と全く同じで、どういうふうにしていきたいのかという具体像がまず先にあって、聞くことが定まってくるのかと思います。

今伺っていて思い出したことがあるのですが、前回の部会で小中学校でもアンケートをとってはどうかという意見が委員から出ていましたが、私はそのことを忘れていました。この意見にも盛り込めていないのですが、それも改めて記したほうがいいですか。

あと、今までの議論の流れで、ほかにもご意見がございましたらぜひお願いいたします。

【委員】

小中学生に聞くアンケートは、普及促進の手法としてのアンケートではないかと思えます。それを含めるかどうかという話だと思います。ここで言うアンケートは、もともと新たな基本計画を作るうえで必要なアンケートだったと思います。それに加えて、子どもたちの環境への普及と啓発という部分も含めて聞くかということになってしまっているのでは、目的が2段階になるのではないかというイメージがあります。

【部会長】

ありがとうございます。そうすると、計画が始まったあとに、子どもたちへの普及啓発として行って、委員がご報告くださったような省エネに有効に結びつけていく。そういうイメージということでしょうか。

【委員】

そうです。そのほうがよりよいのではないかと思います。啓発するにも、それに特化していますから、そのほうがいいのではないかと思います。

【部会長】

ありがとうございます。委員はそういうイメージでよろしかったでしょうか。

【委員】

すみません、ありがとうございます。私がお話した答えになっているか分からないのですが、私としては府中市の今回のアンケートの対象が18歳以上となっていたので、18歳以上を対象とする根拠というか意味合いを見直したほうがいいのではないかと、という意見をしたつもりです。というのは、アンケートを実施するのをもっと若年層にすることによって、府中市の環境について興味を持ってもらう。アンケートをとったことによって、そのアンケートを親も見る。だから、回収率の話があったと思いますが、回収率を上げるためにも、関心を持ってもらうためにも、対象年齢を下げるべきではないか、というようなお話をしたつもりです。回答になっていますか。

【部会長】

思い出しました。では、その点と、委員からの意見、どちらも盛り込めればと思いました。ありがとうございます。

すみません、委員、お願いいたします。

【委員】

今出ている重点を決めるというところですが、フローチャートの9月のところに、課題の改善に向けた議論をして具体的な方針を検討するというがあるので、まず実態を私たちがきちんと捉えて、それから具体的な方針についても部会できちんと話し合っ、そこで仮説を立てるという手立てが必要だろうと思いました。ですから、この提案の部会の流れは大変いいと思いましたが、今の流れでいきますと重点化したものについてアンケートを実施することなので、アンケート調査を実施したあと分析についての部会が必要なのではないかと思います。これを見るとすぐに本会になっていますが、アンケートを実施したあとの分析について部会が必要だろうと思いました。

それから、小中学生のアンケートですが、以前実施されているのです。前のときにやっているのですが、とても簡単な、ホームルームの時間、今日の反省のような、帰りの会のようなところで実施していたということで、小中学生にきちんとアンケートをやるのであれば、内容をしっかり学習して、先ほどの省エネの教育というようなものをやる前とやったあとで（アンケートを）やるとか、その工夫はまたあると思いますが、重点化したもの、課題をはっきりさせて、そして小中学生にもそれに合ったアンケートを作成してやるべきだと思います。アンケートも教育の一つの大きなものなので、サラサラッと済ませるのではなくて、きちっと内容をはっきりさせて、子どもたちにアンケートをさせるべきだと思います。

私が心配するのは、実は先ほどの提案ですが、ガスとか電気のメーターを見るというのは、確かに子どもたちにはすごく分かりやすいのですが、これのやり方はとても難しいのです。私たちもやったことがあります、結局、個人情報なのです。誰々ちゃんのおうちは電気をどれだけ使っているということが分かると、個人としてはよくないわけです。分からないようにして、でも個人的には電気とガスがどれだけ減ったよという面で見えないといけないので、かなり丁寧な教育の仕方、流れを作らなければいけないなと思っています。ですから、重点化するものが何になるのか決まった段階で、かなりきちんとしたアンケートなり、これを基準にして作るにしても、そのプログラムについてはかなり検討をして丁寧にやったものが必要だろうと思っています。

基本的には、この部会長が作成したものについては賛成です。以上です。

【部会長】

ありがとうございました。

【事務局】

事務局からです。すみません。前回の部会の中でご説明できなかった点について、補足して説明させていただきたいと思います。

【部会長】

すみません。私は言うのを忘れてしまうので先に言わせていただいてもいいですか。委員からのご意見について。

【事務局】

お願いします。

【部会長】

今、委員の大変有益なご意見、ありがとうございます。計画の中で具体的に実施していく内容として考えられるなと思いました。全体の府中市が目指す像を考えたときに、例えば「環境教育に根ざした未来のエコ人材を育てます」とか「育てる都市」とか、そういったイメージができるかなと思えます。

それと、全体として委員がおっしゃったような目指すべき像の一つとして置いておいて、今、未来の話をしてしまっていますが、その中で具体的にどうしていくかということで、委員のお話と、省エネ教育を大変参考にして実施していけるかなといった話が進められるかなと思いました。

すみません、忘れそうだったので先に言わせていただきました。では、事務局、お願いいたします。

【事務局】

失礼いたしました。今、委員からお話がありました件について、前回の部会でお話できなかった点について補足して説明させていただきたいと思えます。

委員がご指摘されました若年層へのアンケートの実施につきまして、委員からもご説明いただきましたけれども、第2回の計画策定時にも行っておりまして、当初よりこちらにつきましては検討していたものでございますが、教育委員会との調整がついておりませんでしたので、前回はご報告できませんでした。しかし、一応、実施したい方向で教育委員会との話はしております。また、教育委員会側から環境教育が今だいぶ進んでいるということですので、以前と比較しましても、今の内容に合ったアンケートが実施できるのではないかとのお話もいただいています。

そういった中で、また先生方のご意見等も踏まえたうえで実施できればとは思っておりますが、実施時期や実施方法についてのご意見もございますので、そういったご用意があるといったところでご理解いただければと思えます。以上でございます。

【部会長】

ありがとうございます。すみません、私はちょっと聞き漏らしてしまったかもしれませんが、子どもたちのアンケートについては実施時期をずらして行う方向で、今、調節中ということでしょうか。

【事務局】

部会の皆様から実施時期についてのご意見が出ておりますので、一応ペンディングというかたちで、ご意見を踏まえたうえで実施させていただきたいと思っております。以上でございます。

【部会長】

承知しました。ということは、別にするか、それとも対象年齢を下げるか、そういうところも今議論の最中なので延期しているという理解でよろしいでしょうか。

【事務局】

アンケート自体を分けて行えればなといったところで捉えているところではございます。

【部会長】

ありがとうございます。委員、お願いします。

【委員】

事務局の今の説明によると、2回に分けることもやむなしというお話がありましたが、実際に分析をしようとしたら両方見ないと分析なんかできませんよね。「大人のほうはこう言っているけれども、子どもには違う質問をしてこう答えているよ」みたいな話になるわけで、それに対して別々にコメントをつけたのでは訳の分からないコメントになってしまいます。まして、アンケートをすること自体が目的ではなくて、それを環境基本計画の本編の中に取り込もうと考えたときには、全部を見たうえでなければスタートが切れないのです。切れないのに、別々にやりますということであれば、全部まとめてやっていただいて、最後の集計作業を誰がどうするかは別ですが、それは徹夜をしてもコメントをつけたりいろいろなことをやってもらって、そのうえでできるだけ小さなページで収めてもらうとか。そうでないと、これは言っていることが現実的な表現になっていません。しかも、「来年9月にはもう答申をください。それで終わりにします」と言っているわけですから、いつまで経ってもこれは終わらないですよ。まともなものは出てこないし、「時間がありません。予算がありませんからこれで終わります」みたいになってしまいます。以上です。

【事務局】

すみません、説明が不足していました。アンケートの実施時期は同じですけれども、対象を分けて、内容を分けて実施したいという考えでございます。以上でございます。

【部会長】

ありがとうございます。ということは、小中学校の先生方のご意見を大幅に取り入れながら、部会でも質問項目を確認させていただくという感じになりますか。

【事務局】

そのようにしていただければと思っております。

【部会長】

ありがとうございます。先ほどの委員のご意見に返答しようと思って忘れていましたが、アンケートを分析する部会が必要であるというのは本当にごもつともですので、フローチャートに、とりあえず部会からの意見としてそれを加えればどうかと考えております。皆様いかがでしょうか。この点についてご意見をいただければと思います。

委員、お願いします。

【委員】

部会長の言っていることに反論しているわけではなくて補足しているつもりで発言させていただくと、そのとおりですが、スケジュールはいったいどうなりますか。何回どういうかたちでそこに落とし込むのですか。分かりやすい資料はどうやって出してくるのですか。ま

たは我々が作るのですか。そこのところが見えていないので、イエスともノーとも言いようがありません。部会長がおっしゃることはそのとおりなのです。ちゃんとやるべきことをやって、本来聞きたいこと、環境基本計画としてまとめなければいけないことを大体の仮説ができたうえでアンケートを取りたいと。そういうことで今まで我々は聞いていますから、ああそうですねということですが、それが具体的なこのスケジュールの中に落とし込まれているとは（思えない）。事務局が出してきたスケジュールもそうですし、残念ながら部会長が作ってくださった簡単なフローの中でも、このボックスが1回増えたとして、これで果たしていけるのかといたら、それはちょっと難しいと思います。

それと、あとは実際に部会長も会長もそれ以外の皆さんも、はっきり言って、働いていらっしゃるって、結構忙しい中を万障繰り合わせてご参加いただいているわけですから、ただただ会議を増やせば参加してくれますよねというわけにはいかないですよ。そういうようなことまで全部踏まえて、これはもう一回作り直しをしていただく必要があるのではないかと。

それから、今こうやって地球温暖化対策部会のほうで議論をしていますが、残りの半分の生物多様性の戦略をお作りいただく部会でも、少なくとも前回開催したときには同レベルの議論が出ています。何もなかったということではなくて、これでいいのかとあったことがあります。はっきり言って、環境基本計画全体を考えたら、この2つの部会で今までやってきたのは、せいぜい5ページか6ページぐらい。全体で100ページぐらいあるうちの残りはいったいどうやって仮説を作るのですか。そのうえでアンケートを考えるのではないですか。そのことを全然やらないで、地球温暖化と生物多様性についてだけ何かまとめればいいのかというの、何か考え方を間違えていませんか。

これは重要な項目の一つであることは間違いありませんが、そのことだけにスポットライトを当ててしまうと、ほかのことが全部おざなりになるリスクが出てくるので、それも全部見たうえで判断するべきではないですか。水質汚濁でも結構いろいろな問題が出ていますし、現在府中市の中ではいろいろな問題が起きているようですから、そのことについて議論が全然されないままいくというのはいかがなものか。少なくともそれについて全部事務局のほうからぜひ出していただきたい。出せるものならぜひ出していただきたいと考えています。そのうえで分かりやすい簡略な説明をいただいて、「ああ、我々もそうだな。そこまでまとまっているのだったら」というふうになったところで、初めて「それではアンケートをやりませんか」という話だと思うのです。そういうことをいま全然やっていませんから。そのことについて、事務局のほうはそれなりにもう一回考え直していただければというふうに考えております。以上です。

【委員】

今に関連して、確かに一つチャートが入って、あるべき府中市の環境を練ったうえでアンケートと言いますが、これは1回ぐらいぽってやってそういうイメージができるようなものなのではないでしょうか。例えば、府中市の地球温暖化対策地域推進計画の中でも、府中市の特徴というので、都市から農村から何かごちゃごちゃ入っていますけれども、そういうのを全部精査して、なおかつ……。私が思っているのは、国立とか府中市と小平と、どこを切っても同じようなものを作っているのでは意味がない。やはり府中市なら府中市のあるべき環境基本計画というかそういう感じにしたいのです。そうするとかなり掘り下げていかなければいけないのではないだろうか。

それから、今まで鳥だ魚だ何だといろいろなデータを見ながら府中市の特性を探し出し

て、それで府中市ではこういうことをやろうよということが決まったうえでのアンケートとなると、その作業を果たして、それを例えば事務局に作ってくれと投げてできるものではない。そういう意味ではアンケートまで手が届かないのではないかというのが1つです。

私が、委員の話の中でも心配しているのは子どもへのアンケートで、今地球温暖化で台風が増えているよとか、洪水が増えているよとか、たしかそういう前文が付いていましたが、そういうことはありません。これはIPCCの作業部会の中でもそういうことは言っていないのです。政策部会のほうが勝手に95%何とかしてとかいうので、まだ科学的に云々ということがしっかりしていないところで、子どもの中にどんどんインプットしていくのは非常に危険だと思います。そういう意味では、子どもたちにはそこら辺をちゃんと精査しながらアンケートをしていく必要があるのだらうと思います。以上です。

【委員】

私はこのフローを見せていただいて、進め方としての違和感はなく、私の中ではスッキリしたなと思っています。しかし、今委員がおっしゃったように、これをどう進めていくかというのはまた別の話で、それで先ほど事務局に意見をお伺いしたわけです。

この中で初回からアンケートがやたらにクローズアップされています。アンケートはやるのが前提で進んできているように思うのですが、このフローの「市民の意見」というところに、アンケートとワークショップと2つ書かれています。取組を共有していきましょうという中には、アンケートというやり方もあるでしょうし、並行してやるのもあるでしょうし、ワークショップもあるでしょうし、いろいろなやり方があるのだらうと個人的には思っています。いわゆる取組を共有したいということは、今2つしか枠がありませんが、いろいろなことがあるのではないかと思うので、それはまた別途、どういうふうにして市民と共有していこうかという議論があるように私は思います。

それと、このフローチャートの中の12月の（「審議会本会」の）枠から「市民の意見」のほうに矢印が書かれています。その逆の矢印のところには、盛り込んでいく内容について検討していくというようなことが入ってくるのかなと私は理解しています。そのための取組の共有ということで理解すればすっきりはするのですが、ではこれをどういうふうに進めていくかという先ほどの事務局からのお話で、これだけの回数でこれが議論できるのかなというのはまた別の問題としてありますが、フローそのものには違和感はないし、すっきりはしたなと個人的には思っています。ただ、「市民の意見」のところは、そういうふうにする手法としていろいろなことがあるのかなと。その一つとしてアンケートもあるのかも分かりませんけれども。以上です。

【委員】

お疲れさまです。多分この議論はずっと終わらないと思います。それは多分何を目的としているのかがみんな見えていないからで、対象者を増やすとか増やさないというのも、まずしっかりと目的を決めないと、アンケートの内容も決まてこないと思います。どこの範囲までを目的としていくかを決めてもらって、そのあと、もともとのアンケートはコンサル会社の方が作ったのかな。そういったところに、その目的に合ったアンケートを1回出してもらって、その内容について（検討したほうがよい）。結局、1,500人、1,500社を対象とした理由も統計上何かあるのか分からないのですが、回収率も30%ではたかが知れたアンケートを回収して、それで何を検証するのか全く見えないということがありますので、多分むやみに対象を増やす増やさないというよりも、まず何を目的としたアンケートな

のか、それでアンケートを本当にやったほうがいいのか、そういった検証をしていかなければ、ずっと議題も膨れて、多分終わらないで、やったほうがいいとかよくないとか、やり始めたら終わらないとか終わるとか、そういった議論ばかりになってしまうと思いますので、目的をしっかり作ったほうがいいのではないかと思います。以上です。

【部会長】

ありがとうございます。今までのご意見で、アンケートはそもそも必要がないのではないかということから、目的をしっかりしないといけないのではないかということで、部会長としては大変苦しい状況です。私の考えとしては、審議会本会の8月の資料は多分皆さんもうお手元に届いたのではないかと思います。それを事務局から「できれば早めに目を通していただいて、具体的な課題とかそういったものについて意見をください」というかたちで配信すればいいのではないかと思います。そういうふうにしていくことで、議論の回数の少なさはカバーできるかなと思います。そして、事務局はその方針で協力してくださるということですので、そういうふうにしていけばいいかなと思います。それが1つです。

そうすると、目的ですよ。今、委員がおっしゃった目的。私がさっき言ったような、環境教育に根ざした未来のエコ人材を育てる町とか、ゼロカーボンシティ宣言とか、いろいろ都市でもできることが出てきて、それを目的として、ではどういうアンケートをとるかということが見えてくるかなとは思っています。できれば、前向きに行ければと思っているのですけれども。

そうすると、事務局だけに目的を出してほしいというのではなくて、みんなで共有しながら目的を見出していく。それが大事なかなとは思っています。

すみません、委員、お願いいたします。

【委員】

時間の配分の話もあるので、本当にアンケートの件だけでやっていったら切りがないと思います。では、やらなければいいかということ、やらなければやらないで市民の意見を聞かなかつたと。聞かなかつたというわけではないでしょうけれども、どういう傾向があるか分からないかと思えます。ですから、これはもうあるところで、どういう方向にするかというのは、多数決ですのか、部会長がこれをやりたいという方向であれば、それで我々は納得すると思えます。

あとは、生物多様性のほうもありますから、そこと整合性を取らなければいけないですね。あちらはやるけれどもこちらはやらないというわけにいかないと思います。延々と議論をしていても終わらないと思いますので、方向性を決めていただいたほうがいいかと思えます。

【部会長】

ありがとうございます。委員、お願いいたします。

【委員】

今のお話をいろいろ聞いていきますと、本会の8月に課題を抽出して、部会で具体的な方針、目標を立てるということですね。「市民の意見」のところに、アンケートとワークショップしかありませんが、最初の頃から出ています簡略版。「府中市はこういう問題があるので、皆さん具体的にこんなことに力を入れていきましょう」という簡略版のパンフレットを

作成する。予算の関係がありますけれども、簡略版を作って配布する。それはできれば11月とかにする。

子どもたちのアンケートもそうですが、これを見るとアンケートの実施が12月になっています。子どもたちの環境教育の取組の授業は総合でなされるのですが、2学期で大体ひとまとめが終わります。ですから、本会は1月に予定が入っていませんが、1月に子どものアンケートを12月の大人向けのものと同時期に実施すれば、両方のアンケートをとりまとめて、そして基本方針のほう、令和4年につなげられるのではないかと思うのですが、いかがでしょうか。

【部会長】

ありがとうございます。ほかにご意見はございますでしょうか。

では、時間も迫ってまいりました。委員に決断せよと言っていたいただきましたので、私としては多数決ではない決め方にしたいと思っています。そこでご提案ですが、できる限り8月の本会で課題を抽出して目的をイメージしていくことを進めたい。それと、私からの「部会からの意見」の中に、アンケートのところに付帯意見として「目的がはっきりしないのであればアンケートは実施しないという方向もあり得るのではないか」という少数意見がありました、という文言を付け加えたいと思っています。このような方向でいかがでしょうか。

(「結構です」の声あり 部会委員一同了承)

委員、いかがでしょうか。

【委員】

では、せっかくですから。私も部会長のおっしゃるようなイメージでうまい具合にまとめればいいと思います。逆に言うと、ここに今の環境基本計画がありますが、その頭のところに目次があります。1ページから始まってこういうかたちで付いていますが、このインデックスが大体何ページぐらいで、それぞれがどういうかたちでやるのかということがあって、その中で「今回の環境審議会ではこれについてご提案をさせていただきます」とか、そういうようなかたちでないと、まず全体が見えないのです。これは入れないとか、これは入れるとか、どうなっているのかとか、そういうのが全然見えなくて、ただ「地球温暖化と生物多様性部会があります。アンケートをやるので、そのあとで巻末か何かに入れます」という、これだけで今議論していますが、実際にはそうではなくて、府中市が絡む環境について全部議論するわけですから、そのことをまずみんなが共有して「ああそうだよな、このインデックスのところに書いてあるこの項目は全部あるね」と。部会長は読んでいないというふうにおっしゃいましたけれども、少なくとも審議会の委員になったらそれは全部読んでもらって、中身についても実際に自分の絡むところはどうかやってもらって、ということが全部済んだうえで、しかもうちのチームだと地球温暖化に対する地域対応計画があるわけです。これも100ページぐらいあるので、それについてもどうかということをやったうえで、というようなページ立てというか、中身が全体としてバランスが取れるものはいったい何なんだと。商品として考えたときに今回のセールスポイントは何なのか考えて、そのうえで議論が始まらないと、今誰も議論が分かっていないというようなことで、ただ何か決めたのでこれでやりましょうというのではまずかろうと思います。

それと、あとは委員もおっしゃっていましたし、部会長もおっしゃっていましたが、計画

を立てるときに我々だけで作ったのではまずいというふうに、当然職員は思うし、それ以外のこの委員の中でもそういう意見はあるかと思いますが、2つあります。

1つは、直近で環境保全活動センターのいろいろな提言を市長に対してやる時、それだけで1年以上かけましたよね。1年以上かけて10回以上ミーティングをやって、それぞれ2時間ずつやって、ああでもない、こうでもないとやっているわけです。それは今回もやらなければいけない話です。環境基本計画の実施体制をどうするかという、そのことについてはさらに広い話になりますから、そういったような議論もあります。いろいろなかたちでまだやらなければいけないことが山のようにあるときに、今、委員がおっしゃるように、アンケートに関してばかりかまけてやっていたのでは全然前に進まないですよ。やるのだったらやってもいいけれども、それは最初から部会長の言うように、本編とは全然別のかたちでやることを果たして許してくれるかどうか。

それから、第1回目の環境基本計画を作ったときにアンケートをやった形跡はないのです。それで何をやったかという、広く一般市民の方にご参加いただいて、意識の高いと思われる方に何十人も来てもらって、そのご意見をできるだけ長い間聞いて、それをまとめていきました。第2次の場合もその方針は大体続けて、それにプラスしてさらにアンケートをやりましょうというかたちでやったわけです。どのやり方でやってもいいですけども、計画である以上は、府中市の場合は一般市民の意見を全く聞かないというのはちょっとつらいので聞くのはいいですけども、それがこういうようなかたちで手間が掛かって金がかかるようなアンケートが果たしていいのかどうかというのは、私は多分違うなと考えています。以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

【委員】

今の委員のご意見はもっともですが、ただ今回はあくまで中間見直しです。基本計画を最初から全部作れという話ではないので、全面的に引っ繰り返すわけにもいかないのではないかと思います。

【部会長】

ありがとうございます。すみません、私から。ですので、今事務局のほうにお願いして、資料も探していただいたのですけれども、第1次基本計画でどのような効果があったのかという資料も今度出していただく予定です。第2次も見て、この第2次基本計画の中で何ができて何ができなかったのかというところから、課題と第3次に向けた具体的な目的といったものがはっきりしてくるかなと思います。そこに委員がおっしゃるように、新たに発覚した水の問題なども出てくると思います。なので、そのような方向で進められればいいのか。正確に言うと、進められればいいのかという意見をするだけですが、そういうふうにご意見をまとめられれば私は考えています。実施体制については、基本計画を行っていくうえでの体制というものを考えられればいいのかと思います。

【委員】

すみません。少し確認です。48ページに各自治体の行動とか課題とかありますが、今回はこれについて検証したものが出てくるという理解でよろしいですか。

それと、またフローに戻って申し訳ありませんが、「市民の意見」の書き方を、アンケートとかワークショップとか、いわゆる委員がおっしゃったように、共有して進めるという趣旨の書き方にしてみたらどうか。ほかにも市民が集まってワークショップをやるとか、会議をやるとかということも含めて、その1つとしてアンケートもありますねという位置付けなのかなと、私自身はそういうふうに理解しています。だから、アンケートありきの話ではないかなというのが私の理解です。

それと、計画書の構成という話ではありませんが、私もほかの自治体の計画書がどうなっているか検索して調べてみようと思ったのですが、なかなかうまくいきませんでした。その計画書は各自治体がいろいろな特徴を持ってまとめていると思うのです。金太郎飴的な計画書もあるだろうし、あるいは環境についてきちんとした方針のもとにまとめている特徴的な計画書もあると思います。次回までにはできないかもしれませんが、日本全国の基礎自治体といったら大変なことになりますので、せっかくコンサルもついていますので、建技研さんが関わったところで、「この自治体はこういう主眼のもとに計画書をまとめて、なかなか特徴的ですよ」とか、ここはとおりいっぺんの金太郎飴的な、と言ったら失礼かも分かりませんが、そういったいろいろな。私も幾つかは知っていますが、そういったものを少し整理して（出してほしい）。それはまさしく、その自治体が進むべき方針を如実に示しているのではないかと思いますので、府中市はどういうふうに進もうとするのか、大枠を我々も提供できるものになるのかなと思っています。建技研さんが関わった自治体だけでもよろしいのかとは思いますが、この自治体はこういう内容で、こういうのが特徴的で、なかなかうまくいっているとかいっていないとか。そうすると、我々も目標を定められるかなと思いますが、いかがでしょうか。

【部会長】

ありがとうございます。今、2点事務局のほうに要望があったと思います。

1点目は、ほかの自治体の計画書を精査していただけないかということ。これは検討していただければうれしいなと思いますが、可能かどうかということが1点目です。

あと、今度の第2次基本計画の精査がどういう内容かということを中心に説明していただければと思います。お願いいたします。

【事務局】

比較は、他の自治体の例ですが、時間が許す限りでお示しできるところについてはお示しさせていただければと思います。

2番目の、第1回の審議会の中で施策の体系のイメージ案を出させていただいているかと思いますが、基本的には第1次、第2次に次ぐ計画といったところで考えておりますので、基本方針ですとかそういったところを多少見直して組み立てていくということになります。それぞれの方針の中で、今お話になりました主体といったところにつきましては、やはり市が行うこと、市民に行っていただきたいこと、事業者に行っていただきたいことというような整理の仕方になるのではないかなと考えております。以上でございます。

【委員】

5章の内容はどういうふうに進捗できたとか、あるいはそうではなかったとかというのが次回出てくるのでしょうか、精査という意味では。

【事務局】

重点プロジェクトというものが施策の体系の42ページにあります。こちらにそれぞれ具体的な市の施策を整理しまして、その事業を改めて、今度は重点プロジェクトというのはそれぞれの方針に関わるようなものとして整理してしまっておりますので、基本方針のほうにそれぞれの市の施策を振り返って、その取組を振り返っているというようなかたちになります。ですので、各主体ごとの振り返りではなくて、次回ご用意させていただくのは、市の具体的な施策の振り返りというところです。以上でございます。

【部会長】

ありがとうございました。委員の皆様から補足できるようなデータがあれば配布していただけることになりましたので、皆様もそういった情報の共有ができればよろしく願いいたします。

時間が迫ってきましたので、そろそろまとめたいと思います。この「部会からの意見」について確認事項です。最初に私が説明するときに申し上げたように、立て付けを変えたいと思っています。最初にアンケート調査についてどう考えるかという意見を前にもってきて、先ほどの付帯意見、目的がはっきりしないものであればアンケートはしないというのも組み込むかたちで持ってくる。次に、ではどういうふうに議論を進めればいいのかということをつローチャートで持ってくる。そういう流れにしたいと思っています。そのような変更についてはよろしいでしょうか。

(部会委員一同了承)

異議なしということで、ありがとうございます。

あと、フローチャートについてですが、部会でアンケート調査とワークショップ、ここの情報を共有することを目的にすることも書き込むということもいただきましたが、そのあとに分析するための部会も開いたほうがいいのかというご意見をいただきました。これについてはいかがでしょうか。組み込めたほうがいいのかとは思っているのですが。

【委員】

今出ているここのメンバーの多くは、まずアンケートありきはちょっとまずくないかというのがありますので、できればアンケートを除いて、とにかく全体をまとめるようなかたちが書けるかどうかですね。アンケートをやらずに本会や部会が全部まとまるかどうかということをもまず書き込んでいただいて、それで十分スカスカになっているねといったら、またそこで考えればいい話なのかなと思います。

多分このスケジュールは1つ1つの箱が1回ずつ(の会議)だろうと思いますが、この中で議論をしていくだけでも、多分まとめた議論は尽くせないはずなのです。それで部会長のほうから、もうちょっと回数を増やしてもらえませんかという意見が出ているわけです。何回にするかというのは、事務局のほうからは当然まだ出ていませんから、まずとりあえずアンケートなしでやってみて、それで「これでまだ十分余裕があるね。しかもアンケートが出たらこうやって取り込む余裕も十分あるね。お金も十分あるよ。アンケートをする予算もあるし、概要版を作る予算も十分ある」ということならまた別ですが、どれか1つでもないのであれば、(アンケートを)やるのはよろしくないのではないかと。

今日だってそれであらかた時間が過ぎているわけです。これで委員の日当をそれぞれもら

うわけですから、極めて心苦しいですね。それが私の意見です。

【部会長】

ありがとうございます。私はちょっと委員の意見が理解できなかったのですが、アンケート調査なしで進めるように提言するということですか。

【委員】

今回提言できるかどうかは私もあまりよく分かっていませんが、まずはアンケートなしで部会長がスケジュールを立てられるかどうかを考えていただいて、会長がおっしゃるような仮説を立てるみたいなことを全部含めて、この地球温暖化対策部会も含めて、それ以外の生物多様性その他のすべての部分に関して、アンケートをやろうとしたら全部が対象になりますから、そこについてこのスケジュールでまとめができるのかどうか。まずアンケートなしでやっていただいて見ていただくと一番分かりやすい。アンケートをやらなければいけないと考えるからいろいろとややこしくなるので、アンケートをやらなくてもこれは非常にタイトなスケジュールにならざるを得ない審議会なのです。そのことを考えると、まずアンケートありきみたいな話はちょっと困る。コンサルさんは仕事になるからいいかもしれないけれども、我々一般市民は困ります。そういう話です。

【部会長】

ありがとうございます。最後にまとまらなくなってしまったのですが。

【委員】

議論の流れとして何度も逆戻りしているような気がします。何度も同じことを言いますが、部会長はこのフローチャートで府中市の具体像を示してアンケートをするという方向でお話されていますよね。それでこの会の意見としてはその方向にまとまっているというふうに考えています。それは反対の方もいらっしゃるかもしれない。

そういうことにしないと、また逆戻りしたらいつまで経っても終わらない。私はそういう方向で早めにまとめていただいたほうがいいと思います。

【部会長】

ありがとうございます。ほかにいかがですか。ちょっと時間が過ぎておりますが、重要な視点です。

【委員】

委員と同じような意見になってしまいましたが、繰り返しになって申し訳ないのですが、「市民の意見」のところは、アンケートの実施が1つの枠で、ワークショップの実施も1つの枠になっているので、これが2つだけではなくて3つ4つあってもいいのかなと。それを枠ではなくて、取組を市民と共有しながら進んでいきましょうという行為をここでやるという表現だけの話ですが。そういうふうにして、その中の1つの手法としてアンケートをやるかもしれない。私はやることに反対はしていませんが、ワークショップだとか、市民が集まって、先ほどどなたかがお話しされたような市民会議のようなものをやるとか、そういったステップをやるという、表現だけの話ですが、誤解のない表現にしてみたらどうか。私自身はスッキリしたなと思っています。

【部会長】

ありがとうございます。ほかにいらっしゃいますか。

【委員】

じゃあ、すみません。私のほうから。委員のご意見ももつともな話なので、とりあえず部会長が考えていらっしゃることを前提に進めることに同意したいと思います。

ただし、私はこのことがうまい具合にいくとは到底思えないのです。あとになって、実際の項目をどうやって落とし込むとか、実際に目標をどういうふうなかたちにするかとか、地球温暖化だけに関して言えば政府の予算をそのまま持ってくればいいみたいなどころがありますからあれですが、とにかくそういうことまで考えると、かなりタイトになるということとをみんな覚悟したうえでやるしかないのかなということで、ぜひお願いをしたいと思います。

本来であれば、年3回の環境審議会に進捗チェックの報告を聞く、その他で大体終わりますが、それでも毎回2時間以上時間がかかっているわけですから、それにプラスしてこういうことをやらなければいけないということなので、回数は結構乗っかってくるのが当たり前なので、そのことにどうやって実際に事務局や我々が対応していくのか。特にご商売をしていらっしゃる方とかいけば大変です。何よりも、今日もそうですけれども、緊急事態宣言の真っ最中にこうやって集まって会議をやっているわけです。8月4日も多分そういうかたちでやるわけですから、そういうことも考えたうえでどうするかということは、ぜひ会長や部会長にはお願いしたい。

あともう一つは、今ここに来ていらっしゃる生物多様性のチームの方々にも、できればこういったかたちでのご議論をぜひともしていただきたいと思います。そのために、地球温暖化チームのほうはとりあえずネットワークができていますが、向こうのほうもネットワークというか。まだ完成品ではありませんが、とりあえず委員にはメモをお渡ししてありますので、それも見ていただいて、どうするかを部会長とご相談いただいて、同一歩調がとれるようなかたちをぜひお考えいただければと思います。以上です。

【部会長】

ありがとうございました。今の最後の点については、生物多様性地域戦略部会長にこういう意見がありましたということでお伝えできればと思います。

あと、フローチャートについては、「情報の共有」というような文言を入れたいと思います。実は、環境基本条例に市民の意見を聞かなければならないというふうに書いてあります。ですから、「市民の意見」も残したままそういうかたちにできればと思いました。

あと、できるかどうか分かりませんが「パンフレットの作成」も「分析の部会」も、今事務局案にないところは点線で四角く囲んでご提示できればとひらめきましたので、そのようにしたいと思います。

最後に、修正は私に一任させていただいて、委員の皆様には配信できればと思っています。よろしくお願いします。

ということで、よろしいでしょうか。

(部会委員一同了承)

ありがとうございました。

最後に何か言い残したこと等ある方はいらっしゃいますか。特にご発言が少なかった委員の皆様、大丈夫でしょうか。

(発言なし)

ありがとうございました。

それでは、「3 その他」です。事務局のほうからございますでしょうか。

【事務局】

はい、部会長。それでは、最後ですが、これは皆様にご通知を差し上げていることなので、日程の確認でございます。来週8月4日水曜日午後6時から第2回環境審議会の本会を開催します。次に、これも第1回の部会でお知らせしておりますが、今回は臨時ですけれども、第2回の部会は9月3日金曜日午後6時を予定しております。

机の上に一冊ずつ置きました「地球温暖化対策地域推進計画(中間見直し)」でございますが、既にお配りしているかと思しますので、机の上に置いてお帰りください。

その他としての説明は以上でございます。

【部会長】

ありがとうございました。今、事務局から今後の予定について説明がありましたけれども、何かご質問やご意見がございましたらお願いいたします。

【委員】

今度の9月4日の審議会をお願いします。事前に統一の書類も事務局から送られていると思いますので、そちらを一見してもらえればと思います。以上です。

【部会長】

ありがとうございます。ほかにございますでしょうか。

【委員】

ではすみません、せっかくですから。今日の夕方考えてこういうのを作ってきたのですが、人数が多くなる本会のほうはさらに、例えば会長がオンラインでいると、こちらにいる人間は誰がどうしたか豆粒みたいな話になって分からなくなるのです。ちゃんと議論が進むようにその対策を何か考えてほしい。特に、コロナの真っ最中ですから、みんなここに出てこいとも、自分が出てくるとも言えないと思います。部会長のところは特に小さいお子さんもいるのでうつしたら大変ですからオンラインで参加するのも当然のことだと思いますので、例えばこういうようなやり方を考えましたけれども、それ以外にお互いに指名をしたりするときにやりやすい方法を考えていただいて、8月4日のときにはそれを本番で我々に提供いただくなり、ご指示いただければありがたい。でないと、誰がどうしゃべっているのかわからないのです。お願いします。

【部会長】

ありがとうございました。よい案があったら事務局のほうでご検討をお願いいたします。ほ

かになりますか。

それでは、ないようですので、これにて本日の部会を終了したいと思います。皆様、お忙しい中ご足労いただきまして、本当にありがとうございました。

終了